

第3節 訓練施設の歴史と 4つの訓練センターの現状



当協会の訓練施設は、木造平屋建ての犬舎からスタートしました。
当時は狭い部屋で、共同訓練中のユーザーと訓練士が文字通り「同じ釜の飯を食べた」時代です。
借地問題などで訓練所は移転を余儀なくされますが、
当協会の発展とともに近代的な姿へと変貌を遂げました。
現在、4つの施設では、それぞれ特徴的な事業を行っています。

訓練施設の歴史

設立時から現在に至るまで、協会施設の変遷をたどります。

1966年	練馬区関町にある塩屋賢一氏の所有地を無償で借り受け、訓練施設「日本盲導犬学校」を建設
1967年	財団法人認定を受け、日本盲導犬協会設立主たる事務所を東京都渋谷区上原に置く
1970～1971年	塩屋氏脱退に伴い、日本盲導犬学校を手放し訓練施設を失う。事務局長広瀬エミ子氏が管理する東京都渋谷区上原の事務所の一角で共同訓練を行い、事業継続を図る
1974年	東京都小金井市前原町に、416m ² の土地に鉄骨2階建ての「小金井訓練所」を開設
1988年	土地所有者の都合により土地賃貸契約の更新ができなくなり移転を余儀なくされる。そして、神奈川県茅ヶ崎市本村にある農家を借り、改築し「茅ヶ崎訓練所」を開設
1989年	主たる事務所を東京都新宿区歌舞伎町に移転
1991年	主たる事務所を東京都渋谷区西原に移転
1995年	主たる事務所を東京都渋谷区本町に移転
1997年	横浜市港北区に「神奈川訓練センター」を開設
2001年	宮城県仙台市に「仙台訓練センター」を開設
2003年	主たる事務所を「神奈川訓練センター」に移転
2006年	静岡県富士宮市に「日本盲導犬総合センター」開設
2008年	島根県浜田市に「島根あさひ訓練センター」開設
2009年	神奈川訓練センターの大規模改修を行う
2016～2017年	神奈川訓練センター、仙台訓練センター、富士ハーネスにドッグランを設置



最初に建てられた犬舎



1974年に開設した
小金井訓練所。敷地
416m²、鉄骨2階建
て、宿泊室4室、犬
舎7収容でした



1988年に開設した茅ヶ
崎訓練所。一軒家の庭で
訓練やボランティアへの
パピーレクチャーも行わ
れていました

神奈川訓練センター

常時約40頭の訓練犬がいて、当協会が保有する4つの施設の中で、職員数と訓練犬頭数は最多を誇る主要訓練拠点です。



【設立の経緯】

1967年(昭和42年)、財団設立以来、協会の運営基盤が安定しない中、訓練施設も移動を繰り返します。小金井訓練所から、1988年(昭和63年)に農家を改築しただけの茅ヶ崎訓練所へと移転し、そこで10年近く活動を続けました。しかし、犬舎数が少ないこと、建物の老朽化が進み共同訓練に適した環境ではないことなどから、当協会は神奈川県内で訓練センター新設へ向け土地確保へと乗り出します。

当協会の小山八郎常任理事(当時)が、長洲一二(ながす かずじ)神奈川県知事(当時)にかけあうとともに、羽田孜(はた つとむ)理事長(当時)が農林水産省へと働きかけ、公有地借用の可能性を探りました。こうした働きかけにより県は訓練センター建設実現へ向け動き、保有する土地を借地として提供することを決定したのです。建物の建築にあたっては、日本自転車振興会の補助金交付を得ることができ、1997年(平成9年)5月26日、悲願の訓練センターが完成します。2003年には当協会の主たる事務所を、神奈川訓練センターへと移転し、現在まで安定した運営を続けています。

【特徴】

神奈川訓練センターは、鉄筋コンクリート造り3階建ての訓練棟と犬室・医療室・グルーミング室を持つ犬舎棟で構成されています。

訓練棟の3階には雨天時に犬の訓練もできるトレーニング室(多目的ホール)、2階には共同訓練時に盲導犬と一緒に生活する宿泊室が9室(1室はツインルーム)、生活訓練室、研修室があり、1階には事務室、食堂、相談室があります。

宿泊室は、ベッド・トイレ・風呂・タンス・冷蔵庫・テレビ・インターネットなど、ビジネスホテルと同様の設備を備え、盲導犬と一緒に生活できるケージなどの設備も整えています。他の訓練センターもこうした機能を同様に備えています。

2004年(平成16年)度から2014年(平成26年)度までの11年間は、施設の一角を学生室として日本初の「盲導犬訓練士学校」が運営されました。そこでは、学生と職員がともに切磋琢磨し、影響を与え合いながら

成長をしていきました。2016年から始まった白杖歩行指導員養成課程では、同センターでスクーリングを行うなど、常に人材育成の拠点となっているのも同センターの特徴の一つです。

また地域との関係も深く、横浜市の災害時動物救援体制において動物救援センターに指定されています。

開設から10年余りを経た2009年(平成21年)に、同センターは大規模改修を実施しています。訓練方法の改良により不要となった服従訓練室を廃止するとともに、職員や訓練士が犬舎全体を広く見渡せるレイアウトに変更。家庭に近い環境を整え、訓練犬がどういうふうなまゐをするのか、行動観察もできるようになっています。また、独立した医療室やグルーミング室を設けて、各分野の専門性を維持できる構造にしました。また、備品管理用に目的別収納スペースを設置し、訓練犬2頭部屋を区切って個室化できるようにするなど、盲導犬が清潔で快適な環境でストレスなく暮らすことができるように、細部に配慮した構造となっています。2015年には、神奈川県からの用地の借地期限満了に伴い、この土地を購入し、新たにドッグランスペースも増設しました。

竣工	1997年5月26日
敷地	4,419m ²
床面積	2,344m ²
住所	〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町6001-9
電話	045-590-1595
ファックス	045-590-1599
職員数	41人
訓練犬頭数 (2017年5月末現在)	43頭
担当エリア	関東・関西・九州・沖縄
助成金	1997年 356,200,000円 (日本自転車振興会より)

訓練棟 1 階

食堂

特別会議室

セミナー室

セミナー(1)

セミナー(2)

セミナー(3)

セミナー(4)

セミナー(5)

セミナー(6)

セミナー(7)

セミナー(8)

セミナー(9)

セミナー(10)

セミナー(11)

セミナー(12)

セミナー(13)

セミナー(14)

セミナー(15)

セミナー(16)

セミナー(17)

セミナー(18)

セミナー(19)

セミナー(20)

セミナー(21)

セミナー(22)

セミナー(23)

セミナー(24)

セミナー(25)

セミナー(26)

セミナー(27)

セミナー(28)

セミナー(29)

セミナー(30)

セミナー(31)

セミナー(32)

セミナー(33)

セミナー(34)

セミナー(35)

セミナー(36)

セミナー(37)

セミナー(38)

セミナー(39)

セミナー(40)

セミナー(41)

セミナー(42)

セミナー(43)

セミナー(44)

セミナー(45)

セミナー(46)

セミナー(47)

セミナー(48)

セミナー(49)

セミナー(50)

セミナー(51)

セミナー(52)

セミナー(53)

セミナー(54)

セミナー(55)

セミナー(56)

セミナー(57)

セミナー(58)

セミナー(59)

セミナー(60)

セミナー(61)

セミナー(62)

セミナー(63)

セミナー(64)

セミナー(65)

セミナー(66)

セミナー(67)

セミナー(68)

セミナー(69)

セミナー(70)

セミナー(71)

セミナー(72)

セミナー(73)

セミナー(74)

セミナー(75)

セミナー(76)

セミナー(77)

セミナー(78)

セミナー(79)

セミナー(80)

セミナー(81)

セミナー(82)

セミナー(83)

セミナー(84)

セミナー(85)

セミナー(86)

セミナー(87)

セミナー(88)

セミナー(89)

セミナー(90)

セミナー(91)

セミナー(92)

セミナー(93)

セミナー(94)

セミナー(95)

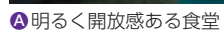
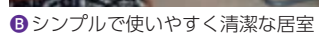
セミナー(96)

セミナー(97)

セミナー(98)

セミナー(99)

セミナー(100)

[illegible]

犬舎棟



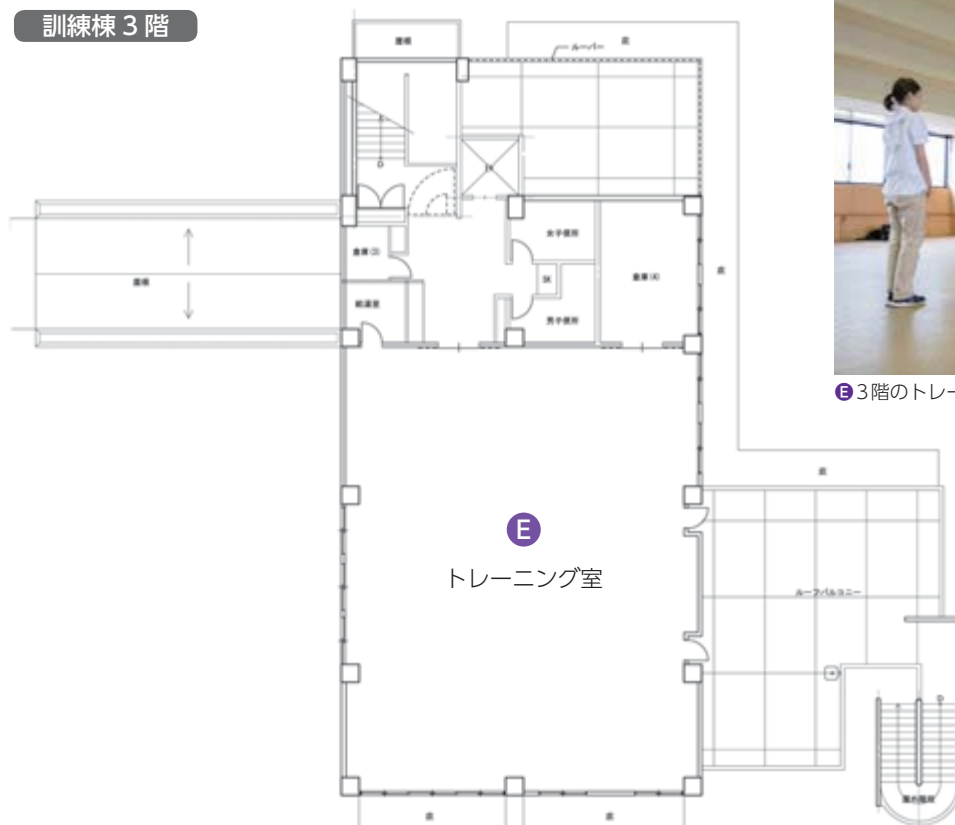
㉓ 中庭と犬舎。黄色のドアが犬舎メイン入り口



㉔ 2009年の大改修で一層快適になった犬舎



訓練棟 3 階



㉕ 3階のトレーニング室でTPテスト評価中

仙台訓練センター「スマイルワン仙台」

東北唯一の視覚障害リハビリテーション施設として、宮城県仙台市の支援を受けて誕生したのがスマイルワン仙台です。東北地域、新潟、北海道の支援拠点となっています。



【設立の経緯】

東北地域は、盲導犬訓練施設はおろか、視覚障害者へ向けた白杖歩行、日常生活訓練等を提供できる施設がゼロという状態が長く続いていました。東北初の盲導犬育成施設を作ろうという動きは、当協会設立7年目の1974年(昭和49年)からすでにありました。しかし、これが具体性を帯びるには、さらに20年の歳月を必要としました。

「東北に盲導犬育成施設を」という志のもと、仙台市へ盲導犬訓練施設建設の支援要請を行ったところ、1995年(平成7年)7月、仙台市交通局の一角を提供していただき、仙台事務所を開設しました。さらに賃借費用の半分を仙台市が補助されることになりました。

ここを拠点に、当協会は「東北福祉あったか計画」プロジェクトを掲げ、仙台訓練センター建設キャンペーンを展開。盲導犬パレード、街頭募金、チャリティーコンサートやチャリティー写真展などを開催し、徐々に地域の信頼を得ていきます。

1997年、市職員のラグビー用グラウンドとして使用していた土地を、仙台市から無償貸与されることが決定しました。翌1998年には、宮城県の障害福祉課長、仙台市保健福祉課課長、県医師会眼科部会会長、盲学校校長などをメンバーとした施設建設基本構想検討委員会が設置され、6回にわたる検討会では、更生援護施設・在宅歩行指導の必要性が指摘され、東北にはこうした施設がないことから早急に盲導犬育成施設

訓練棟 1 階



A 便利グッズ展示室。ユーザーの方に合わせた便利な道具の使い方やご紹介をしています



B 視覚障害者が座る位置を認識できるようテーブルにくぼみを持たせるなど随所に工夫がされています

の建設を望むという結論になりました。

資金面では、日本自転車振興会、宮城県、仙台市から建設補助金を得て、2001年(平成13年)、ついに東北に盲導犬育成施設、仙台訓練センターが誕生したのです。

【特徴】

同センターの特徴は、開設時の経緯から視覚障害リハビリテーション事業にも重点を置いた施設になっていることです。

新たな視覚障害者との接点でもある同センターのユーザーサポート部には4人の職員が配置されていますが、同部署の人数としては他の訓練センター中で最多となっています。この4人の職員全員が白杖歩行指導員の資格取得者で、仙台市との契約に基づき、在宅リハビリテーションを年間およそ350件実施しているほか、東北各地に出張してリハビリテーション訓練を行っています。

また、当協会の独自事業として、数日から1週間程度同センターに宿泊しながら、必要な白杖歩行や日常生活訓練等を受けられる短期リハビリテーションや、

障害児とその家族を対象にした自立訓練を実施しています。

さらに、同センターは視覚障害者に対する訓練だけでなく、東北地域の当事者団体や福祉課窓口、眼科医などの関係者と連携しながら、視覚障害のため孤立し困っている方に対して、福祉機器やサポート体制などの情報提供、さらに実際のリハビリテーションへ結びつける重要な役割も担っています。

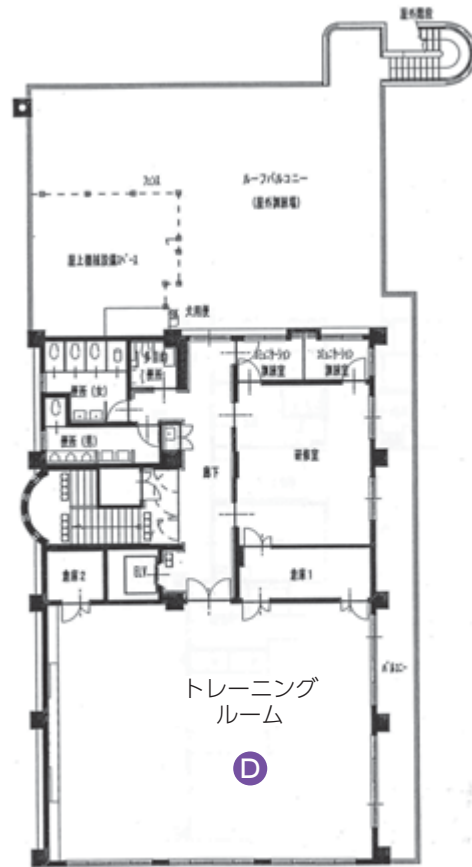
竣工	2001年5月24日
敷地	6,259m ²
床面積	1,899m ²
住所	〒982-0263 宮城県仙台市青葉区茂庭字松倉12-2
電話	022-226-3910
ファックス	022-226-3990
職員数	22人
訓練犬頭数 (2017年5月末現在)	26頭
担当エリア	北海道・東北6県・新潟
助成金	2001年 307,643,000円 (日本自転車振興会より)

訓練棟 2階



●生活指導訓練室。日常生活における基本的な動作の指導などを細やかに支援しています

訓練棟 3階



④ 短期リハビリテーションを利用して
白杖歩行の訓練中

犬舎棟



広々とした敷地で人も犬も気持ちよく過ごせます



人工芝のドッグラン場。犬はのびのび走りまわったり、
訓練士に甘えたり楽しそうです

日本盲導犬総合センター「盲導犬の里 富士ハーネス」

中期5か年計画の中核事業として計画された、雄大な富士の麓で子犬の出産から引退犬の老後まで、盲導犬の生涯を通じたトータルケアが実現できる施設です。日本で唯一、常時見学可能な盲導犬訓練施設として、盲導犬や視覚障害者への理解、普及啓発活動にも力を入れています。



【設立の経緯】

2006年（平成18年）10月、富士ハーネスは最初の事業計画である「中期5か年計画（2004～2008年）」に基づいて、繁殖と研究の拠点として開設しました。

ここは日本中を震撼させたオウム真理教の施設跡地ということもあり、この地が新たに盲導犬育成施設としてよみがえるとあって、地元からも大きな期待が寄せられました。また、当協会の井上幸彦理事長が、奇しくもこのオウム真理教事件当時の警視総監であったことから、富士ハーネス誕生は多くのマスコミで取り上げられました。

富士山麓の広大な敷地に、建築家・千葉学氏設計の雄大な建物がそびえ立ち、「いつでも盲導犬に会える施設」として、一般の方々に年間を通じて開放していることも同センターの大きな特長です。盲導犬の仕事を紹介するデモンストレーションやイベントの実施、子供たちが盲導犬や視覚障害について楽しく学べる企画もたくさん用意しているため、連休や夏休みなどはたくさんの来場者でにぎわいます。

【特徴】

富士ハーネスは、当協会所属の母犬の出産場所として重要な機能を果たしています。出産時期を迎えた母犬は、ここで出産を迎えます。十分な広さと万全な出産サポート体制を備えた同センターでの出産は、母犬にもストレスがなく理想的です。

また、ここで生後の子犬の体調および稟性を観察し記録することも、その後の盲導犬訓練における重要なデータとなります。生まれた子犬が月齢2か月でパピーウォーカーへ預けられる時点まで、母犬と子犬は多くの職員に見守られながら同センターでともに暮らします。また、引退犬がのんびり過ごすための引退犬棟も完備。地元の獣医師と連携した医療ケア体制も整っています。2008年には、寿命を全うした犬たちが眠るチャネルホームも完成しました。

開放型の施設である一方、北陸、甲信、東海地域の視覚障害者支援拠点としても重要な役割を担っていて、共同訓練を行う視覚障害者がリラックスできる宿泊施

設が整っています。また、多くの盲導犬ユーザーやボランティアが気軽に訪れることができる交流の場にもなっていて、夏には毎年ボランティア夏祭りを開催し、広大な敷地内でバーベキューやキャンプを楽しむ姿が見られます。冬には地域の富士宮市青年会のご協力で、富士宮キャンドルナイトが開催されます。国内で活動する盲導犬の頭数と同数のキャンドルを灯すイベントで、当日富士ハーネスは幻想的な雰囲気包まれます。

●富士ハーネスの建物は、多くの賞を受賞しています。

- 2006年 第6回環境・設備デザイン賞・環境デザイン部門最優秀賞
- 2007年 日本建築大賞優秀賞
第17回AACA(日本建築美術工芸協会)賞優秀賞
- 2008年 BCS(建築業協会)賞
- 2009年 第2回静岡県景観賞
第1回富士宮市景観賞 優秀賞

竣工	2006年10月16日
敷地	19,867m ²
床面積	2,933m ²
住所	〒418-0102 静岡県富士宮市人穴381
電話	0544-29-1010
ファックス	0544-54-3030
職員数	22人
訓練犬頭数 (2017年5月末現在)	14頭
担当エリア	富山・石川・福井・山梨・長野・静岡・愛知・岐阜・三重
助成金	2005年・2006年 計396,092,000円 (日本自転車振興会より)

施設内部

防火設備

医療研究棟

子犬棟

親子棟

トレーニング棟

フリーラン

ラウンジ棟

エントランス棟

デモンストレーション

訓練犬棟

子犬棟

フリーラン

事務棟

会議室

応接室

事務室

ロビー

ショップ

学習・資料室

中庭

ラウンジ

多目的トレーニングルーム

プロムナード

倉庫

手術室

レントゲン室

給湯室

経視観察室

不安室

分鏡室

内回廊

外回廊

グルーミング室

ドライ室

倉庫

引退犬室

排便室

作業室

作業室1

作業室2

作業室3

作業室4

作業室5

作業室6

作業室7

作業室8

作業室9

作業室10

作業室11

作業室12

作業室13

作業室14

作業室15

作業室16

作業室17

作業室18

作業室19

作業室20

作業室21

作業室22

作業室23

作業室24

作業室25

作業室26

作業室27

作業室28

作業室29

作業室30

作業室31

作業室32

作業室33

作業室34

作業室35

作業室36

作業室37

作業室38

作業室39

作業室40

作業室41

作業室42

作業室43

作業室44

作業室45

作業室46

作業室47

作業室48

作業室49

作業室50

作業室51

作業室52

作業室53

作業室54

作業室55

作業室56

作業室57

作業室58

作業室59

作業室60

作業室61

作業室62

作業室63

作業室64

作業室65

作業室66

作業室67

作業室68

作業室69

作業室70

作業室71

作業室72

作業室73

作業室74

作業室75

作業室76

作業室77

作業室78

作業室79

作業室80

作業室81

作業室82

作業室83

作業室84

作業室85

作業室86

作業室87

作業室88

作業室89

作業室90

作業室91

作業室92

作業室93

作業室94

作業室95

作業室96

作業室97

作業室98

作業室99

作業室100

作業室101

作業室102

作業室103

作業室104

作業室105

作業室106

作業室107

作業室108

作業室109

作業室110

作業室111

作業室112

作業室113

作業室114

作業室115

作業室116

作業室117

作業室118

作業室119

作業室120

作業室121

作業室122

作業室123

作業室124

作業室125

作業室126

作業室127

作業室128

作業室129

作業室130

作業室131

作業室132

作業室133

作業室134

作業室135

作業室136

作業室137

作業室138

作業室139

作業室140

作業室141

作業室142

作業室143

作業室144

作業室145

作業室146

作業室147

作業室148

作業室149

作業室150

作業室151

作業室152

作業室153

作業室154

作業室155

作業室156

作業室157

作業室158

作業室159

作業室160

作業室161

作業室162

作業室163

作業室164

作業室165

作業室166

作業室167

作業室168

作業室169

作業室170

作業室171

作業室172

作業室173

作業室174

作業室175

作業室176

作業室177

作業室178

作業室179

作業室180

作業室181

作業室182

作業室183

作業室184

作業室185

作業室186

作業室187

作業室188

作業室189

作業室190

作業室191

作業室192

作業室193

作業室194

作業室195

作業室196

作業室197

作業室198

作業室199

作業室200

作業室201

作業室202

作業室203

作業室204

作業室205

作業室206

作業室207

作業室208

作業室209

作業室210

作業室211

作業室212

作業室213

作業室214

作業室215

作業室216

作業室217

作業室218

作業室219

作業室220

作業室221

作業室222

作業室223

作業室224

作業室225

作業室226

作業室227

作業室228

作業室229

作業室230

作業室231

作業室232

作業室233

作業室234

作業室235

作業室236

作業室237

作業室238

作業室239

作業室240

作業室241

作業室242

作業室243

作業室244

作業室245

作業室246

作業室247

作業室248

作業室249

作業室250

作業室251

作業室252

作業室253

作業室254

作業室255

作業室256

作業室257

作業室258

作業室259

作業室260

作業室261

作業室262

作業室263

作業室264

作業室265

作業室266

作業室267

作業室268

作業室269

作業室270

作業室271

作業室272

作業室273

作業室274

作業室275

作業室276

作業室277

作業室278

作業室279

作業室280

作業室281

作業室282

作業室283

作業室284

作業室285

作業室286

作業室287

作業室288

作業室289

作業室290

作業室291

作業室292

作業室293

作業室294

作業室295

作業室296

作業室297

作業室298

作業室299

作業室300

作業室301

作業室302

作業室303

作業室304

作業室305

作業室306

作業室307

作業室308

作業室309

作業室310

作業室311

作業室312

作業室313

作業室314

作業室315

作業室316

作業室317

作業室318

作業室319

作業室320

作業室321

作業室322

作業室323

作業室324

作業室325

作業室3



キャンドルナイト。その年の盲導犬実働数と同じ数のキャンドルが富士ハーネスの夜を照らします



④ 4 訓練センターの中で最大の敷地面積、床面積を誇ります



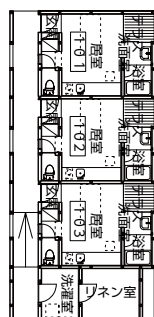
回廊も備え、広いセンター内もスムーズに移動可能です



⑤ 休館日以外ほぼ毎日開催されるデモンストレーション。多くの見学者が見守ります



⑥ 出産ラッシュになると、スタッフは大忙しです



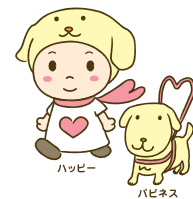
宿泊研修棟



⑦ 採光と通風を兼ねた高い天井と高窓のラウンジ。借景は美しい富士山

島根あさひ訓練センター「パピネス」

日本初の受刑者がパピーを育成する事業「島根あさひ盲導犬パピープロジェクト」を展開。中国、四国地域の盲導犬育成や支援の拠点になっています。



2008年（平成20年）10月に開設した島根あさひ訓練センターは、4施設の中で最も新しい施設です。同センターは、法務省のPFI(Private Finance Initiative＝民間資金等活用)事業として実施される「島根あさひ盲導犬パピープロジェクト」の開始とともに誕生しました。島根あさひ社会復帰促進センターの付帯施設として建設され、当協会は施設の無償貸与を受け、盲導犬育成事業を実施しています。（プロジェクトの詳細は第3章第7節162ページ参照）

このプロジェクトのパピーは、平日は社会復帰促進センターで、週末はウィークエンドパピーウォーカーの家庭で過ごしますが、この2つをスムーズに連携させることも同センターの役割です。また、パピーの体力面での強化、社会化の促進などを目的に週3回、訓練士が訓練センターでトレーニングを行っています。受刑者と地域ボランティアをつなぐ拠点として、また地元とのつながりも大切にしながら、プロジェクトは9期目を迎えています。

島根あさひ社会復帰促進センターに隣接して建てられた同センターは、犬舎が事務所をぐるりと取り囲むように配置されていて、職員がガラス窓越しに犬たちの様子を把握できるようになっているのが特徴です。あまり大きくはありませんが家庭的な食堂スペースでは、共同訓練中のユーザーと訓練士が食事をしながらリラックスした時間を過ごすことができます。宿泊部屋は4センター中で、最もゆったりとした造りになっ

ています。

冬季は積雪があるため、施設内の雪かきから朝が始まることもしばしばです。パピープロジェクトの拠点であると同時に、中国、四国地域唯一の盲導犬訓練センターとして、遠い地域からも視覚障害者が訪れ、共同訓練が行われています。

さらに平日は、人や車でにぎわう繁華街での訓練をより充実させるため、2013年5月に広島市佐伯区の民家を借り、サテライトセンターを設置しました。タウンウォーク時に訓練犬を滞在させることができるため、ここを起点として訓練を効率的に行えるようになりました。2016年5月には、サテライトセンターが島根あさひ訓練センターから車で1時間ほどで移動できる広島市安佐北区に移転したため、より利便性も増しました。



周囲の「ビジターセンター」や「あさひこども園」の建物となじむ色調の外観。地域・社会との交流の場になっています

竣工	2008年10月1日
敷地	2,500m ²
床面積	1,090m ²
住所	〒697-0426 島根県浜田市旭町丸原155-15
電話	0855-45-8311
ファックス	0855-45-1139
職員数	14人
訓練犬頭数 (2017年5月末現在)	15頭
担当エリア	中国・四国9県
助成金	-





廊下も共同訓練の居室も犬舎も広く快適です

パピープロジェクトの一環。訓練生(受刑者)たちは犬の育成にかかわるしつけや遊ばせ方、また盲導犬育成事業もレクチャーを通して学びます

